

株式会社喜多山製菓

生産性向上による収益拡大のための 横ピロー包装自動供給機の導入

1日の処理量80%アップ

せんべい製造の喜多山製菓は、ものづくり補助金を活用して2019年1月、商品の包装工程に自動供給機を導入した。約2カ月のテスト期間

を経て同年3月から本格稼働した「横ピロー包装自動供給機」は、焼き

上がったせんべいを従業員が手でラインに投入していた作業を自動化。せんべいを自動的にラインに乗せ、包装機にかけられるようにした。

これにより1分間当たり120～150枚を包装し



導入された横ピロー包装自動供給機。左側から自動投入されたせんべいがローラーの吸盤に吸い付き、右側奥の包装機へ流れていく

ていた作業効率が250～300個と格段にアップ。せんべいをラインに投入していた人員も省力化できた。

せんべいは回転するローラーの吸盤に吸い付き、形で1列ずつ並んでから、包装機に供給

される。この段階で従業員がせんべいの状態を目視でチェックし、欠けたりしていれば交換することもできる。

新導入の自動投入機は、従来からある横ピロー包装機に増設する格好で設置されている。包装機自体には1分間当たり最速300枚を包装する能力があるが、このスピードだと人間の方が連続的に処理することが難しいという。

1日に包装できる商品の量は、自動投入機の導入前に比べ約1・8倍に増加した。現場の担当者は「もっと回転を上げれば増やせる可能性がある」と言い、習熟度をさらに上げていきたい考えだ。

同社は、焼くせんべいを東大成工場（さいたま市北区東大成町）、油で揚げるせんべいを本社のある大宮工場（同市

西区内野本郷）で製造。東大成工場で作る約60品目の商品のほぼ半分の包装を自動投入機で処理している。

片岡誠一代表取締役は「これからも良質な材料（飯米）を使い、手間ひまをかけた商品を提供していきたい」と話している。

■ 株式会社喜多山製菓

実施場所：さいたま市北区東大成町2-365

本社：さいたま市西区内野本郷445-4

代表者：代表取締役 片岡誠一

設立：1986年3月 資本金：1200万円 従業員数：97人

電話：048 (625) 5686 [実施場所]

モ▶ 片岡代表取締役が1985年2月、さいたま市中央区本町西でせんべいの小売りを始めたのが最初。喜多山の屋号には「多くの人に喜びを」という意味を込めた。